

令和5年 **1**月の大阪森林便り



今月の木の話 **木材が腐りやすい条件は？**

*木が腐るには、木の主成分であるセルロース、ヘミセルロース、リグニンを分解する木材腐朽菌が生きていける環境が必要。

*木材腐朽菌には、栄養源となるセルロースや酸素、適度な湿気、適度な水分が必要です。

*特に水分は、木材中のすき間に水が存在する状態(含水率約30%以上)が必要。

*木を水中に沈めた状態にすると、木の中のすき間が水で満たされて酸素が不足します。なので、木材腐朽菌は繁殖できません。

*庭の土の上に木を置いていると、酸素とともに土から十分な水が入るので、最も腐りやすくなります。

*木が腐ることは、光合成で作られたものが分解されて自然界で循環されることなので、良いことでもあります。

*木材を長く使うためには、無垢材腐朽菌に水を与えないように、木材をある程度乾燥した状態(含水率20%以下)に保つことが最も重要です。

(木材利用システム研究会 木力検定委員会 木力検定 木を学ぶ100問より抜粋引用)



集成材、1年半ぶり安値 住宅向け、新設着工減で

*国産集成材の流通価格が下がりました。

*東京地区の間屋卸価格は、梁に使う集成平角が12月中旬現在、前月比4%安。

*集成管柱も11%安。

*ともに2021年7月以来、約1年半ぶりの安値。

*4~10月の新設住宅着工戸数は前年同期比0.8%減。

*資材高が住宅の買い控えにつながっているほか、工事の遅れも響きました。

*1~10月の集成材輸入量は、前年同期に比べ19%増。

*原料となる引き板材「ラミナ」の対日輸出価格は2四半期連続で下落。

*主力の欧州産の10~12月期は梁向けが33%値下がり。

*原料は2023年1月から入港し始め、2月から製品として出回ります。

*さらに集成材の価格が下がる可能性があります。

(2022年12月16日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



住友林業、海外で木造ビル 脱炭素商機、300 億円投資

- * 住友林業が米国などで木造オフィスビルの開発を拡大。
- * 欧州やオーストラリアを含めて海外の木造ビル開発に 3 年で 300 億円を投資。
- * 「カーボンゼロ」時代をにらみ、脱炭素の技術を競争力の源泉に市場を掘り起こす動きが広がってきました。
- * 木材を接着・圧縮して、コンクリート並みの強度を実現した集成部材を使います。
- * 製造時にCO₂が多く出る鉄骨やセメントの使用量を減らし、資材の調達から解体までのライフサイクル全体の温暖化ガス排出量を同規模の鉄筋コンクリート造と比べて約 2 割減らせます。
- * 木材を工場でユニットに組み立てて施工効率を高めることなどで、工期を約 3 割抑えられます。
- * 鉄骨やコンクリートなどの建材製造や施工から生じる温暖化ガス排出量は、世界全体の 1 割ほどを占めます。
- * 各社は鉄骨・鉄筋コンクリートと木造を組み合わせたハイブリッド構造を中心に温暖化ガス削減に取り組みます。
- * 純木造では、ノルウェーの高さ 85Mの複合ビルが最高層。
- * オーストラリアのシドニーでは、高さ 182Mの木造ハイブリッドビルを計画。
- * 大林組が施工を受注。
- * 建築基準法の改正で 2019 年から耐火構造の要件が緩和され、4 階建て以上の中高層ビルも木造化がしやすくなりました。
- * 2021 年には木材利用促進法の改正で、公共建築物だけでなく民間建築でも木材利用が促されました。
- * 東京海上ホールディングスが 2028 年度に竣工する新本店ビルを、高さ 100Mの木造ハイブリッド構造で建てると発表。
- * 三井不動産と竹中工務店が東京日本橋で、木造と鉄骨造のハイブリッドによる地上 17 階建て高さ 70Mのビルを計画。

(2022 年 12 月 26 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

